

むらさきそう

西東京市立田無第一中学校
校長 辻 康一

（住所）西東京市南町6-9-37 （電話）042-462-2811

カラー版はホームページで

URL <https://www.nishitokyo.ed.jp/j-tanashi1/>



「輝く」ために

先日の運動会は、生徒たちの輝く姿が随所に見られて、とても感動するものになりました。今回はそんな「輝く」ためのお話です。

美しい輝きを放つダイヤモンドの品質は、国際的な基準で、その価値や品質が決められています。それは「Carat 重さ」「Color 色」「Clarity 透明度」「Cut 研磨」の4つであり、それぞれの頭文字をとって『ダイヤモンドの4C』と呼ばれています。実はこの4Cの中で、唯一人間の手にゆだねられているものがあります。

まず、「Carat 重さ（大きさ）」については、大きな石を小さくすることはできるかもしれませんが、小さな石を大きくすることはできません。ですから価値を高めるために「Carat」は人の手では変えられません。

では、「Color 色」はどうでしょう。ダイヤモンドには黄色がかったものやピンクがかったものなど色のついたものがありますが、無色透明なものほど価値が高いとされています。そこで昔から多くの科学者がダイヤモンドを無色透明にするためにチャレンジを続けてきましたが、未だに成功していません。つまり、色も人間の手で操作することはできません。

「Clarity 透明度」については、ダイヤモンドは天然石ですから中に気泡や不純物が含まれています。これらは、ダイヤモンドの輝きの元となる光の透過や反射を妨げてしまうので、透明なものほど品質が良いとされています。しかし、これらの不純物を取り除くためには石を壊さなくてはならないので、やはり「Clarity」も人の力は及びません。

最後に「Cut 研磨」ですが、これは原石の形を整え、磨きをかけ、最高の輝きを引き出す工程です。これこそ、唯一人間の技術に左右され、価値を生み出すことができるものです。どんなに大きな石で、無色透明で不純物が入っていないなくても、磨かなければただの石に過ぎません。人の手で磨き上げることで、ダイヤモンドは最高の輝きを得るのです。

これは、人間についても同じことが言えるように思います。人はそれぞれ個性があり、必ずよい部分や能力があります。そして、経験によってそれらが磨かれ光輝きます。しかしながら、どんなに良いところがあっても磨かなければ決して輝くことはないのです。自分自身を磨くことは、時として痛みや苦しみを伴うこともあるかもしれませんが、その苦しみが「人としての輝き」を生み出します。

生徒たちが様々なことを乗り越え、運動会で輝くことができたように、これからも試練に立ち向かい研鑽を積み重ねて、自らを輝かせてくれることを願ってやみません。

【IJ 学級】校外歩行（5月2日）

心地よい初夏の陽気に、学校から小金井公園までを I J 学級全員で歩いて往復しました。新学年になり初めての行事となる校外歩行は、集団行動のルールを理解し、学年・学級を超えて仲間と楽しく触れ合うことを目的として実施しています。公園の遊具広場でブランコや滑り台、アスレチックなどで思い思いに遊んだあと、広々とした芝生広場でボール遊びや鬼ごっこをして汗を流しました。大きなけが等もなく無事に学校に到着したあとは、遊び疲れた中にも、清々しい生徒たちの笑顔が見られ、今後の行事に向けて関係性を深める良いきっかけとなりました。

IJ 学級 西嶋 悠



【3 学年】高校の先生の話聞く会・進路説明会（5月21日）

今年度は、都立田無高等学校・都立田無工科高等学校・都立稔ヶ丘高等学校・東亜学園高等学校の先生方にお越しいただき、高校についての講話を頂きました。各校それぞれの特色ある話を聞いて、生徒たちの進路に対する意識が高まる会になりました。特に「自分に合った学校を選ぶことが大切である」という各校の先生方の言葉は、生徒たちの心に大きく残りました。

後半は第一回進路説明会を行いました。進路の大まかな考え方、上級学校の種類や選抜方法、これからの心構えを中心に話をさせていただきました。これを機会に、各ご家庭でも進路の話を話題にしていただけると幸いです。

進路指導主任 吉原 脩平



【生徒の感想（抜粋）】

- 自分にあった学校を選ぶことが大切であることを学ぶことができた。今後自分は何がしたいのか、どんな自分になりたいのかよく考えて、志望校を決める時に役立てていきたい。
- 高校選びの意識を高め、自分のやりたいことを決めるのはもちろん、それを実現するために勉強も頑張っていきたい。

【全学年】運動会（6月1日）

昨年に引き続き全校での実施。新しいクラス、学年になって初めての大きな行事でもありました。運動会の成功を予感させたのは、本番二週間前に行った全校練習。実行委員の号令に合わせ、白い体育着を身にまとった全校生徒が、大空のもと、素早い動きで校庭いっぱいに広がっていく様子は圧巻でした。天候が危ぶまれる中でしたが、開会式が始まる直前、まっていたとばかりに太陽があらわれ、最高の状態で運動会を開催することができました。学級ではもちろんのこと、クラスや学年を越えて声を掛け合い、盛り上げようとする姿から、「この運動会は、田無一中生全員で創りあげるんだ！」という強い想いが感じられました。3年生が魅せて、伝えて、残してくれたものを、1・2年生が、そしてその先の後輩たちが、ずっと受け継いで、「伝統の運動会」になることを願っています。

保健体育科 中村 諒平

